

## 「現状とSDGsを目指すための課題・消費者としてできること」

コープやまぐち常任理事 太田高志氏

### 【コープやまぐちの現状】

組合員 21万5000人

山口県の人口135万人、世帯数60万世帯なので、世帯辺り3人に1人強が会員。出資金は87億円。本部は山口市にあり、宅配センターは、中部、宇部、厚狭、下関、長門、萩、岩国、周南西、周南東、周東の10センターあり、店舗は山口市に3店舗、宇部、周南、光、そして下関市には新下関の駅前に店舗を持っている。下関店は売り上げが20億円ぐらいで、一日で2500名近くが来られる。コープやまぐちでは一番大きなお店だ。

### 【コープやまぐちの理念】

「一人ひとりの願いを寄せ合い、私たちのまちに人間らしい豊かなくらしの創造を」

1970年のオイルショックの頃に、地域の生協が、自分たちの暮らしを守るために、食品の公害があるなかで、なんとか家族に安心なものを食べさせたいという主婦の方が出資して、共同組合をつくって利用しようというので始まった。コープやまぐちは来年60周年になる。暮らし、健康、福祉、文化、環境、平和の6つのテーマで、山口県を中心に食品ロスや健康のこと、平和の問題、環境の問題などで学習会をしてきた。値上げの問題に関心が高い。

われわれが直面している問題は、魚の問題がある。われわれは朝早くから職員が特牛から門司に運ばれた魚を買う。ところが円が安くなって、中国のブローカーが買い付けにくる。われわれが小アジを100円で買うと、200円で買って行って、市場の値段があがって一時期小アジが398円になった。モノの値段がそんな形で上がっている。

### 【コープがおこなうSDGsの活動】

▼コープやまぐちは、「地域、環境、社会、人々」の4つの視点で「エシカル消費」を進めている。商品をとおして地域や環境、生産者を応援する仕組みを作っている。

・「大地の力を活かすシリーズ」は、農薬や化学肥料に頼らず、土壌の力を活かし、環境の負荷を少なくする農法でつくられた野菜

・「リサイクル材使用シリーズ」は、環境負荷を減らした商品パッケージ

・「海の資源を守るシリーズ」は、MSC海のエコラベル商品

もずく基金（沖縄県恩納村のサンゴの養殖など再生事業のために積み立てている）

・「森の資源を守るシリーズ」は自然環境を守り働く人を応援するレインフォレスト・アライアンス認証

・スマイルスクールプロジェクト（アンゴラの学校づくりを支援）など。

・コープの洗剤環境寄付キャンペーンは、WWFジャパンを通じ、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家を支援（一品購入で0.5円をWWFに寄付）

### ▼買い物支援

・道の駅や社協と連携し、買い物困難者宅の訪問活動（岩国市錦町道の駅ピュアライン）

・JAの移動販売車を引き継ぎ、婦人部と意見交流し、買い物困難者への訪問（豊田町）

▼ココフォームを立ち上げ 2011年から、自分たちで生産を開始。

▼食事サービス 宅配こくる

▼独自のクリーンテクノロジー「ナノイーX」搭載のショーケースと空調の室内機を日本ではじめてスーパーとして採用。



▲移動店舗



▲お買い物サポートカー

豊田にあるJAさんの移動販売車出発店舗が閉鎖することとなり、買い物困難者への訪問をコープが引き継ぎました。車両も譲渡され、JAの人気商品の販売継続、婦人部との意見交換で新たな買い物困難者の方への訪問活動を行っています

### 「消費者にできること」

コープやまぐち常任理事

福浪美紀氏

自分たちで自分たちの暮らしを守るための活動をしている。環境、値上げの問題、暮らしのなかから関心を持ち、選択できる力をつけること。

#### 【コープやまぐちのとりくみ紹介】

・フードバンク山口と協力して、食品ロス解決のために活動

・エシカルチャレンジ2021 コープやまぐちのエシカル商品のマークを集めて応募用紙に貼ってもらう活動。マークを知ってもらう第一歩として参加型の活動

エシカル商品とは・・・「誰かの笑顔につながる買い物」おいしいから、安いから買うだけでなく、消費に何かの価値を見出して選択の意識を持つ。

・コープやまぐちの「産直」＝「産地直結」を意味する

産地・生産者が明確であること、肥育・肥培方法・管理が明確であること、生産者との交流がおこなわれていること。

・コープやまぐちの「地産知食」＝食べ物を知り、生産者を知り、食べ方を知る。

一人でも始められることがたくさんあるので、SDGsは世界中でとりくむ目標だが、自分たち一人一人が持続的にとりくむことが大事。ロコミはとても大きく影響するので、周りの人と話してみても関心を広めることもできる。少しでもSDGsの目標達成に近づいていけるのではないかな。誰かがやってくれるのではなく、自分たちでこの地球をつくっていくというのが、このSDGsの目標ではないかなと思う。私たちが消費者であり市民であり、一緒に行動を起こしていきましょう。



### 海の資源を守るシリーズ

～未来につながる魚を選ぼう～

### 大地の力を活かすシリーズ

～未来につながる豊かな大地を～

### リサイクル材使用シリーズ

～環境負荷を減らして未来につなげる～

農薬や化学肥料に頼らずに、土壌の力を生かし、環境の負荷をできるだけ少なくする農法で作られています。



## MSC 海のエコラベル商品

## コープの洗剤環境寄付キャンペーンとは

日本生協連は、2018年から3年間、WWFジャパンを通じ、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農家を支援してきました。生産性の低さに悩む小規模農家が、知識・資金不足により農園を拡大するため、さらなる森林破壊が危ぶまれています。そこで、小規模農家の組合を結成、適切な農園管理方法を学び、生産性を高める活動などを実施しました。2022年度から従来の小規模農家支援に加え、より広範囲で多くの農家がサステナブルな農業を営むようになり、熱帯林破壊が抑止できるよう、地方自治体への働きかけを強化します。この活動をインドネシアの他の地域へ広げていくことを目指します。

